

「お酒造りを通じて日本人としての心の実感を!」

田植えから収穫、仕込み、販売まで——日本酒づくりの全工程に当事者として参加できる産学官連携プロジェクト。
酒造りを通じ、多世代共創や農文化の継承といった“日本人の心”に触れる学びも。
日本酒好き・イベント好き歓迎します! 限りある大学生活の中で、私たちと一緒に様々な企画・イベントに挑戦しませんか。

メンバー数 : 6名
活動場所 : 明和町
実施主体 : 一般社団法人 神都の祈り
担当教員 : 千田 良仁 (現代日本社会学部)
活動年度 : H28, H29, H30, R01, R02, R03, R04, R05, R06, R07



1年の活動まとめ・考察 (成果と課題)

今年は秋学期に活動が集中した。今年度の方針は、キックオフミーティングで確認した通り、さらなる認知度と販売数の向上のため、各種イベントでの販売・RP活動やSNSでの発信を強化することであった。結果として、複数のイベントでの出展・販売・PR活動を完遂し、その様子も発信した。
特に万博関連の場では、三重県外の幅広い世代・地域の方々に神都の祈りを知っていただき、知名度向上という成果につながった。
一方で、万博では初参加のメンバーがおり、商品の説明をスムーズに行うことが難しかった。新しく加入したメンバーが円滑に活動へ入れるよう、説明しやすい環境整備や事前準備、教育機会の充実が課題となった。具体的には、活動開始時点のミーティングで新入生と顔合わせを行い、商品説明の練習や知識を身につける機会を設ける必要がある。
さらにディスカバー農山漁村の宝アワードの授賞式では、全国の多様な事例を学びながら自分たちのプロジェクトをPRでき、意見を交わすことで学びが深まった。受賞は大きな成果であり、今後の活動の励みとなった。課題としては、この受賞を一過性のものにせず、より多くの人に知っていただくため、PRや挑戦の機会を継続的に重ねていく必要がある。
最後に伊勢楽市では、2回目の活動ということもあり落ち着いてPR・販売を行えたほか、酒屋の方から今後の課題について直接助言を得られたことが収穫であった。
助言の内容として、誰に飲んでもらい、誰に売るのがというターゲットを定め、商品のコンセプトを明確にしたうえで戦略を組み立てること、実際に味を理解し、どのように発展・販売につなげるかを検討することが求められた。今後は、こうした学びを踏まえ、基礎知識の共有と戦略づくりを両輪として、認知拡大と販売向上に取り組んでいきたい。

月別活動

- 4月 ・伊勢楽市にて日本酒「神都の祈り」の販売・PR
- 8月 ・キックオフミーティング
- 9月 ・抜穂祭
・大阪・関西万博「三重の文化」にて日本酒「神都の祈り」の販売・PR
・伊勢志摩SAKEサミットにて日本酒「神都の祈り」の販売・PR
- 10月 ・伊勢楽市出店説明会へ出席
・いつのみや観月会にて日本酒「神都の祈り」の販売・PR
・日本酒プロジェクトメンバー交流会
- 11月 ・伊勢楽市にて日本酒「神都の祈り」の販売・PR
・日本酒プロジェクトメンバー交流会
- 12月 ・ディスカバー農山漁村の宝アワード授賞式
・アワード授与に伴う明和町長表敬訪問 (報告)
- 1月 ・日本酒仕込み体験 醸造祭
- 2月 ・日本遺産マルシェにて日本酒「神都の祈り」の販売・PR
・アワード授与に伴う副知事表敬訪問
- 3月 ・完醸祭

活動を通して学んだこと

1. 祭りと稲作を「現場」で理解できた
神道学科生として、祭りがどのような場で、どのように行われているのかを実地で学べた。稲作に関わる一年の祭りを、地域住民の立場から捉える機会となった。
2. 自分が携わるものを説明できる知識の重要性
伊勢楽市楽市などの場で日本酒について質問されることが多く、活動に関わる者として「何を、なぜ、どう伝えるか」を支える知識が必要だと実感した。
今後は神職を志す者として神々に関わる事柄を扱う事となり、正しく理解し、分かりやすく説明する力の重要性を学ぶことができた。
3. 地域のつながりが産業を支えていることを体感
日本酒は地域の人々の協力や関係性によって成り立っていると分かった。さらに大阪・東京など外部のイベントで、他の団体の様々な活動事例に触れることで視野が広がり、皇学館大学生としての学びも深まった。
4. イベント販売を通じた発信力と地域への貢献
大阪・関西万博関連を含む様々なイベントで販売・PRを行い、町内外の人に明和町の魅力を伝えられた。地元出身者として、これまで明和町と関わりの薄かった学生が米づくり・酒づくりを通じて地域に関わる姿を見られたことも大きい。卒業後も地域に関わる人が増え、関係人口の拡大につながれば嬉しい。

実施主体からのコメント

一般社団法人 神都の祈り
ご担当者様

活動10周年という記念すべき年に、「ディスカバー農山漁村の宝」選定という素晴らしい成果を学生の皆さんと共に達成できたことを大変嬉しく思います。今年度は、「認知度と販売数の向上」という目標を掲げ、万博関連イベントや伊勢楽市など、多くの対外的なPR活動に学生主体で積極的に取り組んでくれました。特に秋以降の過密なスケジュールの中で、現場での販売や地域住民との交流を通じ、単なる「作業」ではなく、神道や稲作文化の本質を肌で感じ取ってくれたことは、活動の大きな意義であったと感じています。この経験を糧に、今後も地域と大学をつなぐ架け橋として、自信を持って活躍してくれることを期待しています。



担当教員より

現代日本社会学部 千田 良仁

活動10周年という節目の年に、「ディスカバー農山漁村の宝」選定という素晴らしい成果を挙げたことを高く評価します。今年度は「神都の祈り」の認知度向上を目標に、万博関連イベントや伊勢楽市など、学外での販売・PR活動に非常に精力的に取り組んでくれました。特に、単なる販売活動にとどまらず、活動を通じて神道や稲作文化といった「日本人の心」への理解を深め、それを自分たちの言葉で消費者に伝えようとする姿勢が見られたことは、CLL活動の学びとして大きな意義があります。新入生への継承という課題にも向き合い、次年度以降さらに活動が発展することを期待しています。

こんな人におすすめ!

- ・日本酒が好きの人
- ・企画して動くのが好きな人
- ・商品づくり・発信に興味がある人
- ・地域や自治体と関わる経験をした人
- ・神社やお祭り・稲作の文化に興味がある人



成果物 / 制作物